

1 学びの多様化学校のあり方について

<不登校児童生徒の状況>

1 不登校児童生徒数の推移

(人)

区 分	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度
小学校	2 9 6	2 9 4	2 0 0	1 5 7	1 0 9
中学校	5 1 6	4 8 9	4 2 8	3 8 9	3 1 9
計	8 1 2	7 8 3	6 2 8	5 4 6	4 2 8

2 不登校出現率

[小学校]	市	県	国	[中学校]	市	県	国
R 6	2.38%	1.98%	2.30%	R 6	7.99%	6.55%	6.79%
R 5	2.31%	1.75%	2.14%	R 5	7.45%	6.24%	6.71%
R 4	1.53%	1.26%	1.70%	R 4	6.38%	5.05%	5.98%

<本市の取組状況>

1 本市の主な不登校支援について

(1) 教育支援センター「すくうる・みらい」運営事業

①「すくうる・みらい」の運営 (H10～)

- ・通級する不登校児童生徒の学習やスポーツ活動等を支援する。
- ・通級が難しい不登校児童生徒に対して、I C Tによる学習支援を行うとともに、学校と連携して教育相談を推進する (R5～)。

[R 6 入級状況] 小学生 2 1 人、中学生 4 6 人、計 6 7 人

②体験活動の実施 (H15～)

- ・不登校・不登校傾向の児童生徒を対象に、年間 4 回の体験活動を実施する。
(自然体験、施設見学、ものづくり体験 など)

③フレッシュフレンド (兄・姉に相当する大学生) の派遣 (H6～)

- ・不登校や引きこもり傾向の児童生徒の家庭を訪問し、交流や相談活動を行う。

[R 6 派遣状況] 対象児童生徒 1 4 人、派遣回数 1 6 8 回

④相談活動の実施 [児童生徒、保護者、教職員対象]

- ・「すくうる・みらい」における臨床心理士による相談活動 (H19～)
- ・不登校保護者相談会 (「心のふれあい相談会」) での保護者による座談会および臨床心理士による個別相談を年 2 回実施 (H15～)

(2) 校内教育支援センター支援員配置事業

- ・不登校児童生徒の登校支援や教室以外の学びの場を確保するため、市立小学校の校内教育支援センターに、学習支援や生活支援等を行う支援員を配置する。

[R 7 配置状況] 小学校 8 校、中学校 1 校

- ・今後、段階的に支援員の増員を図り、全ての小学校への支援員配置を目指す。

2 学びの多様化学校について

(1) 全国の設置状況

国は、第4期教育振興基本計画（R5.6月）において、令和9年度までに全都道府県・政令指定都市に1校以上、将来的に全国で300校の設置を目指すことを示している。

[R7 設置状況] 58校(小8校、中34校、小中5校、高11校)のうち公立37校、私立21校

＊東北は6校設置

- ・宮城県富谷市(富谷市立富谷中学校西成田教室) R4～
- ・宮城県白石市(白石市立白石南小・中学校) R5～
- ・宮城県仙台市(ろりぽっぷ学園小学校) R5～
- ・山形県上山市(上山市立西郷小・中学校) R7～
- ・福島県棚倉町(棚倉町立棚倉中学校) R7～
- ・秋田県大仙市(秋田修英高等学校全日制課程ステップアップコース) R7～

(2) スクールビジョン『自分らしく学ぶ』

- ・柔軟な教育課程のもと、自分のペースで学ぶことができる新たな学校
- ・「安心」「笑顔」「達成感」の3つをキーワードにした学校づくり

(3) 学校規模等

- ・小・中併設校（小学校3学級、中学校3学級、計6学級）
- ・小学校は複式学級（2・3年、4・5年、6年）
- ・全児童生徒数60人程度（各学級10人程度）
- ・区域外就学制度の活用、市外からの児童生徒の受入れ

(4) 職員の構成

- ・県費負担教職員
校長、教頭、養護教諭、中学校教員、小学校教員、事務職員
- ・市会計年度任用職員
多様な学びのコーディネーター、校務員、学校司書、給食支援員、
学級生活支援サポーター、配膳パート、スクールカウンセラー

(5) 校舎

- ・既存の廃校舎を活用
- ・普通教室、特別教室（理科室、音楽室、美術室、図書室等）、
その他（体育館、グラウンド、保健室、校長室、職員室等）

(6) 今後の主な予定

[R7] 11月：ニーズ調査、1月：設置検討委員会、3月：文部科学省に開校申請

[R8] 5月：設置準備委員会、6月：視察、8月：県教育委員会に開校申請

9月以降：保護者説明会、プレオープンスクール、設置準備委員会
転入学説明会・受付

[R9] 4月：開校

